

～あなたは本当に必要としているのか～

私たちに神の計画があり、その計画に沿いながら歩んでいきたいと思っています。その時、その時においては私たち自身が神の計画の全容を理解できていないかもしれませんが、しかし、自然と1つの方向に向かっていき、それぞれが意味のあるものになっているのを見る事ができます。「人は心に計画を持つ。主はその舌に答えを下さる。(箴16:1)人は心に自分の道を思い巡らす。しかし、その人の歩みを確かなものにするのは主である。(箴16:9)」「始めよければ全てよし」ということわざもあります。私たちは初心を大切にいき、チャンスを逃さないようにいきでいかなければなりません。そのためには日々の生活が大事なのです。心の中心に何かあるのでしょうか。「人は自分の行ないがごとごとく絆解だと思ふ。しかし主は人のたましいの直うちをばられる。(箴16:2)」「私たちはその時を真剣に行っているだけですが神の計画が進んでいるのです。そして生涯を終えた時に、結果が分かるのです。私たちは神の計画を進めていく時に助け手である聖霊によらなければできません。ペンテコステの日の際し、そのことを考えていきたいと思ひます。(詩篇1:1~6) 私たちは正しく歩んでいるでしょうか。「まことに、主は、正しい者の道を知っておられる。しかし、悪者の道は滅びうせる。(詩篇1:6)」「悪者はもみからのように吹き飛ばされて最後は滅びに至ります。私たちはどのように歩んでいるでしょうか。しっかりとした目的を持った人生を送ることにより、生涯を終える時に主に満足感を得、天に帰れるのではないのでしょうか。神の計画を遂行する時に必ず成功させてくださいますし、私たちのもっている能力を超えて働かれます。そのためには日々の土台作りが大切です。ここぞという時を逃してしまわないように歩んでいる人が「水路の側に植わった木」のようだとと言われるようになります。私たちはチャンスを逃さないように歩まなければなりません。主からのチャレンジを逃す前に乗り越えてきてでしょうか。そして私たちにできる事を一つずつ積み上げていきましょう。私たちが周りに対して良くしていれば、いざという時に、助けしてくれます。私たちはこのような人間関係の中で生きています。これは神との関係も一緒です。宗教(リリジョン)ではなく、関係(リレーションシップ)です。マングローブの木は水路の側に植わった木ですが、いつも良い水が流れてくるわけではありません。マングローブが息しているところは上げ潮の時には海水が混じってしまうようなところもあります。植物にとって、海水に含まれているナトリウムほど、悪いものではありません。しかし、マングローブはこのナトリウムを克服しています。ナトリウムを貯蔵する葉を作り、木の全体にナトリウムが回らなくなっています。私たちは生きていけば問題にありま。しかし水路の側に植わっている木のようであれば、悪い事が起こったとしても書されません。反対に強固になります。主を知らない人々は悪い問題を悪い事にしか受け取れない故に問題なのです。問題となっているものがいつまでも問題になっている状態がいけないのであって、問題がやってきても、克服し肥やしとなっていけばええすれば、問題ではありません。これが重要で。またマングローブが密生している所はとて災害が多いところです。そのため外側にあるマングローブは防風対策として背丈も大きくなります。しかし内側になり、水路から離れるにつれ、葉を落とし、木の大きさを抑え、水の流量を下げています。教会で共に生きていくための役割を行っている姿を見る事ができます。私たちが周りの方々と共に成長しあっていくために、いつも御言葉を口ずさみながら歩んでいきたいのです。「まことに、その人は主のおしえを喜びとし、昼も夜もそのおしえを口ずさむ。その人は、水路のそばに植わった木のように、…その人は、何をしても栄える。(詩篇1:2~3)」「私たちはただ御言葉を読んでいるだけではなく、神を追い求めている時に聖霊様が働くからその人は何をしても栄えるようになります。私たちは神の計画の全容を理解してやっていますが、その都度、神の知恵を求めてやっています。時が来るとそれが1つの計画であったと理解できるようになります。弟子たちはイエスの昇天後、イエスの言葉の通り、祈り待ちました。そしてペンテコステの日には炎の舌のようにやってきた聖霊によって大胆に神の働きが進められていきました。原点は「あなたがたに新しい心を与え、あなたがたのうちに新しい霊を授ける。わたしはあなたがたのからだから石の心を取り除き、あなたがたに肉の心を与える。わたしの霊をあなたがたのうちに授け、わたしのおきてに従って歩ませ、わたしの定めを守り行なわせる。(エゼ36:26~30)」にあります。イエスの誕生の数百年前から十字架と復活、ペンテコステが神の計画として建てられました。私たちが生まれもった能力を超えた力を与えると約束して下さいました。内住して下さる聖霊がいるのであれば、イエスを知らない人と比べると私たちはすごい能力を持っていることとなります。この能力は自他ともに認められるものです。自分の愚かさを誇る事ができるのは私たちに内住して下さる方がすごいからです。「わたしは木の実と畑の産物をふやす。それであなたがたは、諸国の民の間で二度とききんのためにそしりを受けることはない。(エゼ36:30)」「いつも主の教えを口ずさみながら、聖霊によって歩んでいる事ができれば、私たちが決してそしりを受けることがなく、何をしても栄えるようになります。「あなたがたは、わたしがあなたがたの先祖に与えた地に住み、あなたがたはわたしの民となり、わたしはあなたがたの神となる。わたしはあなたがたをすべての汚れから救い、穀物を呼び寄せてそれをふやし、ききんをあなたがたに送らない。(エゼ36:28~29)」「私たちの心の霊に従って歩んでいけば、すべての汚れから救われ、たくさんの人々が私たちの周りに呼び寄せられてきます。反対に悪いものが心の中にあると、悪いものが呼び集められてくることとなります。私たちは良い事がきていますか、それとも悪い事がきていますか?何も来ていないのでしょうか。何もきていないのは悪い事が来ている以上に悪いことです。悪い事がきているのであれば、心に御言葉を蓄え、助け手である聖霊が働けるようにすればよいのです。私たちの行動で、ぬかりがなく、周りから立派であると評価されなければなりません。しかし単純に良い人になろうというわけではありません。イエスキリストの生涯を見ると、多くの人たちからは支持されました。しかし律法学者やパリサイ人などに対してはただの良人ではありませんでした。このように御言葉に生きる人は聖書に照らし悪い事に対しては悪いと指摘していくからです。キリストに習うものになると言われています。良いことはかりを言う人は主の教えを喜んでいる人ではありません。主の霊が内住していても意味がありません。助け手と共に生きるためには①みことばに生きる。みことばを読むだけでなく、何をしなさいと言っているのかを考えなくてはなりません。糧として読むことが大切です。その人の価値観に御言葉があるかどうかです。御言葉がいわんとしていることが価値観かどうかかみことばに生きるということです。あなたの考えが聖書であるべきです。人に接するとき、怒るとき、涙する時、全てのときに御言葉があるかどうかです。御言葉で語り合なくてはなりません。あなたに御ことばの根拠があれば相手は言い返せません。「昼も夜もそのおしえを口ずさむ」これが価値観になっているということです。御言葉もわかるように言わなければ意味がありません。②志を実行する。何かをするから助け手が必要になります。何もしない人は助け手は必要ありません。「わか子よ、私は、わか子、主の御名のために宮を建てようとする志を誓ち縛ってきた。(1歴22:7)」「志の堅固な者を、あなたは全き平安のうちに守られます。その人があなたに信頼しているからです。(イザヤ26:3)」「神よ、みこころのままに、あなたがたのうちに働いて志を立てさせ、事を行なわせて下さるのです。(ピリ2:13)」「神が志を与え、事を行なわせて下さるのが聖霊です。事を行う力を持っている私たちは事を行なわなければなりません。志を行おうとする時に御言葉がないと真剣に、正しく姿勢で取り組む事ができません。そうなってしまうと、周りの人の助け手も与えられなくなります。助け手と共に事を行えば成功します。するべき事を実行していきましょう。③落ち着く! 助け手の語りかけに対して、心が騒いでいる時は真剣に聞くことができません。罪があつては助け手は私たちの側にいられますから、御言葉に生きていて、悔い改めができてい事が前提としています。それに加えて落ち着きましょう。「また、私たちが命じたように、落ち着いた生活をするを志し、自分の仕事に身を入れ、自分の手で働きなさい。外の人々に対してもりっぱこらるまうことができ、また正しいことがないようになるためです。(1テサ4:11~12)」「聖書は一貫しています。志に沿って助け手と共に自分のするべき事をし、周りの人が認める人になっていきましょう。復活の主は弟子たちを目の前にして「平安があるように」と言われました。心を騒がせず、落ち着いた生活をしていきましょう。良い事をしていても、周りに何をしているのか伝わらないのでは意味がありません。私たちの個々にあるテーマ(計画)に基づき、落ち着いて判断していきましょう。緊張、不安、怒り…などを覚えてしまう場面でも、落ち着けるでしょうか。一息吐き、落ち着いて、助け手と共に行動していきましょう。助け手と共に行動しますので、自分一人で行っている時よりも余裕ができます。これが大事です。これから多くの人と接していきますが、余裕があり、正しい判断が出来ているのであれば、その人の周りに人が集まってきます。そしての方が教会に集うようになります。もう一度、私たちの志を確認し、落ち着いた中でするべき事を御言葉によって判断し、助け手と共に行っていきましょう。神様からの賜物(プレゼント)は「助け手」である聖霊です。その方が下って来られたのがペンテコステの日です。今日から私たちはその方を蔑ろにすることなく、落ち着いた生活をしていきましょう。(要約者:平澤一浩)